

## 低コスト化が招いた 東静岡駅触車死亡事故！

本部は8月29日、申第7号で申し入れた「東静岡駅触車死亡事故について」業務委員会を開催しました。

この事故は、7月24日13時頃、東海道本線東静岡駅構内において協力会社の見張員が通過中の「ふじかわ6号」に触車し、死亡した事故です。JR東海労は事故を重く受け止め、会社の安全に対する姿勢に大きな問題があるとして会社を追及しました。会社は事故について、亡くなった中継見張員が、列車の運行状況を打ち合わせしなかったこと、工事指揮者の指示を受けずに下り線に立ち入ったこと、線路とホームの間を列車に背を向けて歩いていたことが重なり触車したとして、すべて本人に責任があるかのごとく事故説明を行いました。

これに対して本部は、見張員がどうして線路とホームの間を歩いてしまったのかと原因を問いましたが、会社は「分からない。調査中」と原因の特定をしませんでした。本部は対策として「ホーム上での見張は駅改札口を通過して移動すること、ホームの下に待避するなど緊急時の訓練を行うこと。列車の接近を知ることができる衛星利用測位システム（GPS）を中継見張員にも携帯させること、JR東海が見張員に対しても実践的な教育をすること」と具体的再発防止案を会社に求めました。また、静岡支社管内において協力会社の触車死亡事故が後を断ちません。今回の事故は、低コスト化が招いた事故と言えます。本部は会社に対し、工事費の削減を止め、安全に対する設備や教育に十分投資をするべきだと主張しました。

**安全教育はJR東海が責任をもつて実施せよ！  
教育や設備への投資をさらに行うこと！**

## 低コスト化が招いた 東静岡駅触車死亡事故！

本部は8月29日、申第7号で申し入れた「東静岡駅触車死亡事故について」業務委員会を開催しました。

この事故は、7月24日13時頃、東海道本線東静岡駅構内において協力会社の見張員が通過中の「ふじかわ6号」に触車し、死亡した事故です。JR東海労は事故を重く受け止め、会社の安全に対する姿勢に大きな問題があるとして会社を追及しました。会社は事故について、亡くなった中継見張員が、列車の運行状況を打ち合わせしなかったこと、工事指揮者の指示を受けずに下り線に立ち入ったこと、線路とホームの間を列車に背を向けて歩いていたことが重なり触車したとして、すべて本人に責任があるかのごとく事故説明を行いました。

これに対して本部は、見張員がどうして線路とホームの間を歩いてしまったのかと原因を問いましたが、会社は「分からない。調査中」と原因の特定をしませんでした。本部は対策として「ホーム上での見張は駅改札口を通過して移動すること、ホームの下に待避するなど緊急時の訓練を行うこと。列車の接近を知ることができる衛星利用測位システム（GPS）を中継見張員にも携帯させること、JR東海が見張員に対しても実践的な教育をすること」と具体的再発防止案を会社に求めました。また、静岡支社管内において協力会社の触車死亡事故が後を断ちません。今回の事故は、低コスト化が招いた事故と言えます。本部は会社に対し、工事費の削減を止め、安全に対する設備や教育に十分投資をするべきだと主張しました。

**安全教育はJR東海が責任をもつて実施せよ！  
教育や設備への投資をさらに行うこと！**